No.

阿賀野市 新町遺跡 現地説明会資料

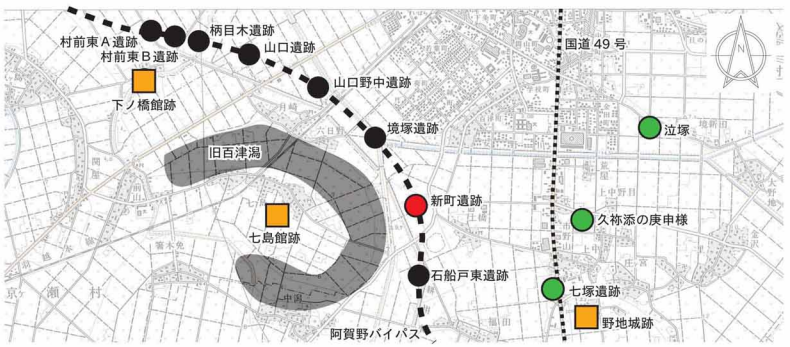
[新潟県阿賀野市大字百津字新町ほか]

国土交通省 北陸地方整備局 新潟国道事務所
公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
株式会社 ノガミ

1．はじめに

新町遺跡は、新潟県教育委員会が国道 49 号阿賀野バイパス建設に伴い、平成 20 年度に行った試掘調査で発見された中世の遺跡です。建設工事の南進に伴い、今年 4 月から 9 月末までの 6,750 ㎡を対象に発掘調査を行っています。

調査の途中ではありますが、本日までの発掘調査の成果をいち早くご紹介いたしたく、現地説明会を開催します。



遺跡位置図

2． 遺跡の立地と現況

新町遺跡は、阿賀野市大字百津字新町ほかに所在し、小里川の右岸に並行する旧阿賀野川（百津潟）右岸に形成された自然堤防上に立地しています。

遺跡から見渡すと、南東には五頭連峰を、南西には新津丘陵や弥彦山・角田山が眺めます。

遺跡の西側を流れる耕用水路を築くために、昭和８年頃に土取りを行い、現在は水田地帯となっています。築堤などによって、遺跡の上面は削平され、現在の水田耕作土の直下から中世の建物・井戸・溝などの遺構が見つかっています。遺構が見つかった面（遺構確認面）の標高は、約 6.5 ～ 6.7m です。

3． 遺跡の概要

①基本土層

Ⅰ層は表土、Ⅱ層は水田耕作土です。Ⅰ・Ⅱ層を除去すると、Ⅲ層上面で中世の遺構が見つかります。Ⅳ層からは炭化物が見られますが、遺構や遺物は見つかっていません。Ⅳ層以下を遺構確認面（Ⅲ層）から約 2m ほど掘り下げましたが、中世以前の遺構・遺物は見つかりませんでした。

Ⅲ層は、遺跡の北側から南側に向かって高くなっており、遺跡の中ほどで見えなくなります。ここから南側にかけては、Ⅳ層上面で遺構が見つかっています。集落が営まれた中世は、北側から南側に向かって緩やかに地面が高くなる地形であったということが分かりました。

基本土層

②遺跡の配置

遺跡の中央では調査区を２分するように２条の溝（北側が溝１・南側が溝２）見つかりました。

溝１の北側では掘立柱建物が５棟、井戸が 44 基、土坑が 31 基、溝が６条あります。溝１と溝２の間には大型の井戸２が見つかりました。溝１の南側は井戸 23 基、土坑 17 基が見つかりました。

遺跡の北側から順に、掘立柱建物群→井戸群→区画溝→土坑群→井戸群という配置で遺構が広がります。

4． 検出された遺構

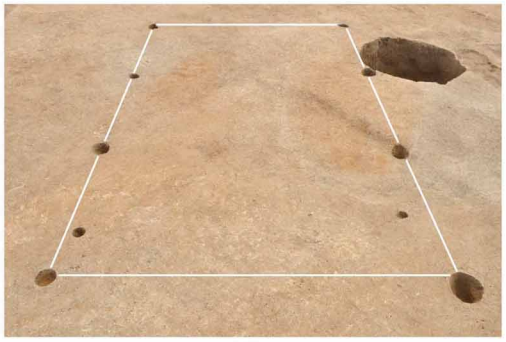
≪掘立柱建物≫

掘立柱建物は５棟見つかりました。すべての建物の向きが溝１～５と平行ないしは直交しています。

建物１・２は、溝１に平行して建てられており、南北を軸にして、西に約 80°傾いています。

建物３～５は、溝１に直交するように建てられており、東に約 10°傾いています。

建物４の柱穴からは、根石が見つかりました。柱が沈み込まないようにするために工夫されたものです。



建物１

建物３

≪井戸≫

井戸は 67 基見つかりました。

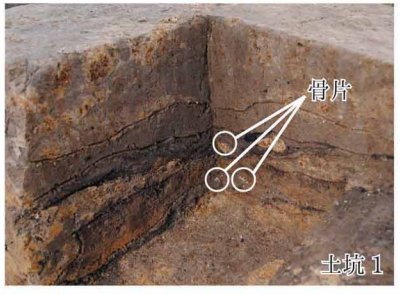
井戸１は、径が約５ｍもある大型の井戸で、遺構が見つかった面（Ⅲ層）から 80cm ほど、掘り下げたところで井戸側が見つかりました。井戸側の周囲には葦のようなものが敷かれていたことなどから、井戸側の上部に井桁が組まれていたのではないかと推測しています。井戸の上部構造を知る上で貴重な資料と言えます。

井戸３は、規模や遺物に目立った特徴はありませんが、埋没河川に堆積した生木をも掘り抜いて構築しています。生木には掘り抜く際についた工具の痕跡も見られました。当時の井戸掘りの苦労の跡がうかがえます。

井戸１

井戸４

≪土坑≫

土坑１からは骨や焼土・炭・灰が見つかりました。

土の堆積状況などを観察すると、焼けた土はあるものの土坑の内部に熱を加えられた痕跡が見られないことから、別の場所で焼いたのちにこの場所に廃棄したのではないかと考えられます。骨は小動物のものと推測していますが、科学分析をしないと正体は不明です。動物を焼いて食べたのでしょうか、生活の痕跡がうかがえます。